

令和4年度 第2回国分寺市環境審議会議事要約

日 時 : 令和4年8月23日(火) 午前9時30分～午前11時30分
会 場 : 市役所 プレハブ会議室第1

○会議次第

1. 開会

2. 資料確認

資料1:次期(第三期)環境基本計画に向けたフレーム検討について
(令和4年度第1回国分寺市環境審議会ご意見)

資料2:他団体の環境基本計画の事例(東京都・東京都環境白書 2021 抜粋)

資料3:環境基本計画のあり方・環境マネジメントシステム(案)

資料4:令和4年度国分寺市環境審議会スケジュール

令和4年度第1回国分寺市環境審議会議事要約(案)

3. 議題

(1)次期(第三期)環境基本計画に向けたフレーム検討について

(2)令和4年度国分寺市環境審議会スケジュール

4. その他

・第3回開催について(12月頃開催予定)

5. 閉会

出席委員 : 中西由美子会長, 佐藤敬臣副会長, 青山温彦委員, 山岸信雄委員, 和田淳委員,
野澤淳史委員, 六車貴美子委員, 卷田清委員, 内藤義和委員, 藤井達男委員

出席委員 : 10人

欠席委員 : 1人 荒井雄一委員

傍聴者 : 1人

事務局 : まちづくり部まちづくり計画課 5人(部長, 課長, 係長, 担当, 応援職員)

1. 開会

中西会長：これより、第2回国分寺市環境審議会を開催する。

今年度の環境審議会は、次期環境基本計画に向けて環境マネジメントシステムを見直し、より実のある形にしたい。前回（7月）、委員よりいただいた意見をまとめ、たたき台を提示したので議論したい。

2. 資料確認

事務局より配布資料の確認を行った。

第1回国分寺市環境審議会議事要約（案）へのご意見等は、8月31日までに事務局まで連絡をいただきたい。

3. 議題

（1）次期（第三期）環境基本計画に向けたフレーム検討について

事務局より資料1・2について説明

●資料1記載の（2）環境審議会の役割③2ポツ目の「見当」を「検討」に誤字訂正。

和田委員：（資料2）東京都環境基本計画は、政策の柱として環境局の各部の方針を5つ示している。同様に国分寺市は関連する各課の方針として落とし込まなければ、実効性がなくなると思われる。例えば、「スマートエネルギー」等のキーワードに着目してしまうと、具体的な施策に結びつかなくなる可能性がある。

藤井委員：東京都環境基本計画は、今後、政策1～5ではなく、戦略1～3+0となる。これらの計画は対外的に環境行政がどうあるべきかを打ち出すためのもの。各課で責任を持って取り組むのは当然のこととして、わかりやすい切り口・見せ方で解決する部分もある。

中西会長：どこの部署が取り組むというのは最終的には落とし込んでいく必要がある。今後も議論していきたい。

六車委員：部局というより、国分寺市がどうするのかを示す必要がある。そのために市民がどう考えるか意識調査が必要。しかし、意識調査は市に対する負の意見が出やすいので、その部分だけでなく、今ある自然等のいい部分も計画に取り入れてほしい。

中西会長：東京都環境基本計画でも、計画の位置付けや状況を示した上で政策を見せる作りとなっている。前回の議論の中でも同様の意見があった。いい部分については、誘導にはならないように注意しつつ、市民から上手く引き出す調査が必要だろう。

和田委員：いい部分とはアンケートにて引き出すことを想定しているのか。また、それは環境基本計画と実施計画を規定する条例第7条2項でいうところの保全か。漠然といい部分と言っても分かりにくいいため、定義付ける必要があると考える。

事務局：国分寺市で環境に特化した市民意向調査は行っていない。環境基本計画策定から時間が経過し、状況が変化しているため、調査は必要と考えている。その中でいい部分に

についても把握し、計画に反映させることが国分寺らしさにつながると考えている。

野澤委員：国分寺市にある大学として、調査への協力等できることは多くあると思われる。積極的に学外に出ようという動きもあるため、近隣の大学も含め取組等検討できるだろう。

中西会長：方法論は今後検討していきたい。

事務局より資料3・4について説明

中西会長：資料3について、忌憚ない意見をいただきブラッシュアップしたい。環境基本計画の目的や位置付けを明確にし、改善案を示している。また、策定プロセスを可視化し、環境推進管理委員会との関係や市民意見の取り入れ方等を示した。

佐藤副会長：第二次国分寺市環境基本計画のP.78に当時のプロセスの記載があるが、市民からの声が反映されにくいと感じたため、プロセスの見直しを提案した。

和田委員：環境審議会と環境推進管理委員会の関係として、具体的施策について環境審議会も関わるのか。

佐藤副会長：策定については基本計画、実施計画ともに環境審議会が関わり、環境推進管理委員会は評価を行う。そこで評価して抽出された課題を環境審議会も把握し、見直しに生かしていくという考え方。

中西会長：条例による役割として、環境審議会は環境基本計画に関することとあるが、これに実施計画も含まれていると考えている。また、策定については、環境審議会が担い、環境推進管理委員会は施策の管理と評価を担うものとして推進体制案を作成している。点検・評価については、評価シートにて実施状況とその評価、解決方法の記載を求め、委員会でより深い分析・評価をして環境報告書を作成するものとする。この評価の中で抽出された課題について環境審議会でも把握し、実施計画の見直しに生かしたい。環境ひろば等の市民の関与をどう入れ込むかは今後の課題である。

また、確認として、環境ネットワークの実態について事務局に説明を求める。

事務局：環境ネットワークは、実施計画等を協働で推進するため、市内の環境活動団体や事業者をつなぐ目的で設置するものだが、実際には立ち上げには至っていない。今現在は環境ひろばが、各者が集まる場になっている。ひろば自体は誰でも参加して環境をテーマに話すことができる場であるが、これをきっかけとしてネットワークを作れないかと考えている。

佐藤副会長：環境ネットワークについては優先施策を検討、実施すると条例に規定されているため、現時点で存在しないのであれば、仕組みまたは条例の改正を検討する必要があるのではないかと考えている。

事務局：環境施策は行政だけでなく、事業者や市民それぞれが取り組む必要があるが、各主体の関与の仕方は施策による。施策の優先度と環境ネットワークにおける優先度は必ずしも一致しないと考えている。

内藤委員：東京都の保全地域内にも活動団体が数多くあり、これまで何度も団体のネットワーク化を試みたが、価値観や目的が違うことからとても難しいことを実感している。この件については長い目で見てよいのではないかと考えている。

中西会長：価値観の違う団体等が定期的に対面し、情報交換をすることで相互理解につながる場

としては有意義と思われるので、うまく整理して活用していきたい。

和田委員：整理にあたって、条例上では環境ネットワークを設置する目的は既に決まった優先施策等を「推進する」に、各団体や事業者が自分のできることを整理・検討する場として位置付けられていると読める。したがって優先施策等そのものを検討することではないと考える。

(休憩)

中西会長：今後の提案として、当初のスケジュールでは第2回環境審議会まで、フレーム検討の予定となっていたが、第4回までの議題としたい。また、第3回までに環境推進管理委員会と調整を行いたい。

その他、資料に関して質問や意見はあるか。

六車委員：市民アンケートを大学生が行うと反応や成果が違うのではないか。

野澤委員：一理あるだろう。ただし、カリキュラムがあるのですぐには難しい。また、勉強や研究の一環として整理して位置付ける必要がある。それらを踏まえ、スムーズに進めば今年度大学内で検討をして、来年度取り組める可能性もある。関係部署と相談する。

山岸委員：そのアンケートは学内のみか。社会参加としてぜひ校外での取組を実現したい。

野澤委員：大学内で試験的にアンケートを取ることは考えられるが、市民を想定したものもありうる。

六車委員：他の行政では所管課のみでなく、関連する部署も審議会に参加しており、その場で直接意見を聞ける。国分寺市ではそのような体制は検討できないか。

事務局：他の部署でも包括的な計画等を所管しているが、現時点で他の部署が参加することはあまり例もなく、調整が難しいと思われる。

佐藤副会長：市議会の建設環境委員会のように全員を出席させる方法も考えられるが、果たして可能だろうか。

事務局：建設環境委員会においても、現在は議案や報告事項等に関係する課のみが出席している。

そもそも関係課は個別計画を所管するものであり、環境基本計画に関する総括的な部分はまちづくり計画課の所管である。この審議会の場でも、当日の議題に関連することが明確であれば関係課に声をかけることはできるが、毎回は難しい。

六車委員：国分寺市における、運輸や家庭等の部門別の温室効果ガス排出量やエネルギー消費量は公表しているのか。

事務局：東京都と自治体で連携している、みどり東京・温暖化防止プロジェクトによるデータを使用している。ただし、3年程度のタイムラグはある。

中西会長：本日初めてご参加いただいた、東京ガスネットワーク株式会社の巻田委員からご意見はあるか。

巻田委員：本審議会でも扱う環境基本計画は、東京都の計画を参考として、国分寺市独自の計画という位置づけだと理解した。当方はエネルギー事業者であるため、今後具体的な施策の際にはよろしく願います。

中西会長：重点プロジェクトについては、部門をまたいで横串を刺すことが目的であったが、上

手く機能していないため、次期計画ではなくす方向でよいのではないかと。

内藤委員：フレーム検討について、令和5年2月までの成果目標はどこか。

中西会長：まず、資料4のスケジュールというフレームとは、資料3に記載しているシステムそのものを指す。計画の中のフレームとは別物であるため、違う文言を検討してもよいかもしれない。また、今年度どこまで詳細に検討するかは決まっていなかったが、資料3のシステムに肉付けしていきたい。

藤井委員：令和4年度は計画策定のプロセスを承認し、具体的に計画に盛り込む内容は令和5年度以降との理解でよいか。

中西会長：そのとおりで、令和5年度以降、早期に検討を進めたいと考えているが、1年以上はかかるの見込んでいる。

和田委員：次回の環境審議会では環境推進管理委員会の意見が盛り込まれた案が出てくるのか。

中西会長：今回は環境推進管理委員会との協議の結果を示して、皆様の意見をいただきたい。環境推進管理委員会とは、本日の内容をもって協議をする。

内藤委員：資料3の改善案は策定方針のようなものと理解した。これをベースに庁内検討を進め詳細にしていくということだが、現時点の記載事項も一般的なことと感じており、現在の計画にも書かれていることと重複するのではないかと。

中西会長：現在は現状把握と課題抽出について満足しているとは考えていない。

事務局：何を施策の柱にしていくかは調査や現状分析をしてからでないと決まらなないと考える。前回の環境基本計画に記載があっても、運用の中で混沌としているところもある。それらを整理した上で次の計画の検討を進めたいと考えているため、資料3に記載されている改善案や策定プロセス、推進体制等を基本に立ち返って整理改善してから、計画の検討に進みたいと考えていた。なお、今回の資料でおおよその整理ができたと思われるので、次回までに環境推進管理委員会と内容の調整をしたい。

内藤委員：今後の流れの中で、計画内容検討の前にこれまでの取組の成果を見える形にした基礎資料を作成する必要があると思われる。そのために全庁に調査をかけて、まとめるという検証作業が一番エネルギーを必要とする。

また、世の中の現状として、気候温暖化と生物多様性は、今後必須のキーワードである。時代を捉えながら市民の意見を聞くことが重要である。

青山委員：第三次基本計画も10年の計画となるのか。時代の変化に対応するために、3年や5年を検討してもよいのではないかと。

中西会長：期間についても今後議論していきたい。変化に対しては3年ごとの実施計画の見直しで対応できると考えているが、途中で追加や修正ができる仕組みも検討できるかもしれない。そのための方法として電子化等が考えられるのではないかと。

藤井委員：実施計画が令和6年度に延伸した理由は何か。

事務局：市の最上位計画である国分寺市総合ビジョンの改定に合わせたことによる。

中西会長：以上につき、環境推進管理委員会には本日の内容で協議をして、結果を次回の環境審議会で報告する。

4. その他

事務局：次回の開催は12月頃を予定している。詳細な日程はメールにて改めて連絡する。

5. 閉会

中西会長：これより、第2回国分寺市環境審議会を閉会する。